

CLUSTERPRO

MC StorageSaver 2.0 for Windows

はじめての StorageSaver

(vSphere 対応版)

© 2015 (Jun) NEC Corporation

- ☐ はじめに
- ☐ 製品概要
- ☐ 監視の設定と実践
- ☐ 付録
- ☐ おわりに

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.0 for Windows(以後 StorageSaver と記載します)による ディスク装置監視の基本的な動作について説明したものです。

(1) 本書は以下のオペレーティングシステムに対応します。

vSphere 5.1 および 5.5 の仮想 OS として動作する下記の OS

Microsoft Windows Server 2008 Enterprise (Service Pack 2 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 Standard (Service Pack 2 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise (Service Pack 1 を含む)

Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard (Service Pack 1 を含む)

Microsoft Windows Server 2012 Standard

Microsoft Windows Server 2012 Datacenter

Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard

Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter

(2) 商標および商標登録

- ✓ Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ✓ Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
- ✓ Windows Server 2008 R2 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 R2 です。
- ✓ Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
- ✓ EMC、Symmetrix、CLARiX、VNX、PowerPath は EMC Corporation の商標または登録商標です。
- ✓ CLUSTERPRO X は日本電気株式会社の登録商標です。
- ✓ この製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェア(log4net)が含まれています。
著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥LICENSE.txt
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1. はじめに	2
2. 製品概要	3
2.1. 製品概要について	3
3. 監視の設定と実践	5
3.1. インストール	5
3.2. 設定ファイルの作成	10
3.3. 監視の開始	14
3.4. 監視状態の確認	15
3.5. 監視の終了	17
4. 付録	18
4.1. 手動による設定ファイル作成手順	18
5. おわりに	23

1. はじめに

本書では、StorageSaver による vSphere CLI 上の仮想 OS (Windows) から、ESXi ホストに接続されている FC 接続による物理 I/O パスおよび仮想ディスクの監視を実現します。

物理パスの監視の設定および監視手順を一連の流れで確認することで、StorageSaver の動作を理解することができます。

本書では、以下のような監視例を使用します。

- ・ StorageSaver による物理パスおよび仮想ディスクの監視

なお、各パラメータの意味や詳細につきましては、同梱の「CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.0 for Windows ユーザーズガイド(vSphere 対応版)」をご覧ください。

本書では以下の手順で物理パスの監視を行います。

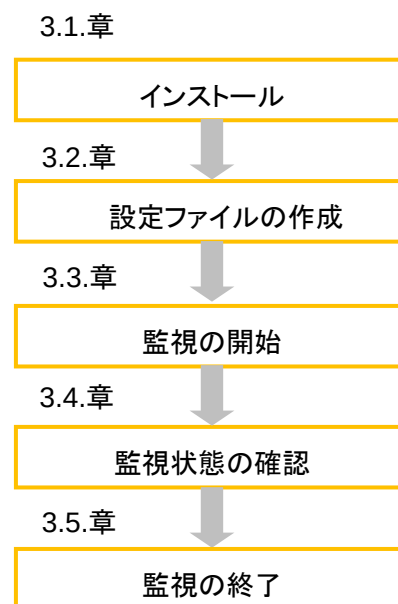


図 1 仮想環境での物理パスの監視手順

2. 製品概要

2.1. 製品概要について

本製品には以下の機能があります。

◆ 仮想 OS での物理 I/O パスのリソース監視機能

vSphere ESXi 上の仮想 OS から、ESXi ホストに接続されている FC 接続による物理 I/O パス（以後物理パスと記載します）および仮想ディスクの監視を実現します。

仮想 OS 上から物理パスの状態を確認するために、VMware 社が提供する vSphere CLI（以後 CLI と記載します）を使用し物理パス情報を取得します。

◆ 仮想 OS での物理パスの自動閉塞機能

異常が検出された物理パスの閉塞を CLI を使用し、ESXi ホストに指示します。

注意 : 閉塞機能は、FC 接続された物理パスに対してのみ有効です。

◆ クラスタウェア連携機能

仮想 OS が使用するディスク装置へのすべてのインタフェース機構の異常により、ユーザーデータへのアクセスができなくなると、クラスタウェアと連携し、パッケージの移動やノード切り替えにより業務の継続的な運用を実現します。

注意 : 本機能は、クラスタウェアが導入されたクラスタシステムで使用可能です。

◆ オンライン保守機能

仮想 OS 上からの物理パスの閉塞、復旧、一括復旧を実現します。

これにより、障害が発生した際に、異常が検出された物理パスを特定するとともに保守員によるシステム無停止保守を可能とします。

◆ 運用管理機能

物理パスの監視状態の表示や仮想 OS 上からの手動による閉塞といった運用管理機能をコマンドインタフェースで提供します。

注意:閉塞機能は、FC 接続された物理パスに対してのみ有効です。

◆ オートコンフィグレーション機能

設定ファイルの自動生成機能です。

ESXi ホストに FC 接続された物理パスを監視対象として設定ファイルを作成します。

注意:オートコンフィグレーション機能は、監視対象となる仮想 OS のディスクを以下の構成で作成した場合のみ有効です。それ以外の場合、設定ファイルは手動作成してください。

＜vSphere Client(5.5.0)の場合＞

- ・「ディスクの選択」で「新規仮想ディスク」を選択している
- ・「詳細オプション」で「仮想デバイスノード」に「SCSI」を選択している

＜vSphere Web Client(5.5.0)の場合＞

- ・「新規デバイス」で「新規ハードディスク」を選択している
- ・「仮想デバイスノード」に「SCSI コントローラ」を選択している

※vSphere のバージョンによって適宜読み替えてください

◆ プロセス監視機能

本製品で提供するデーモンプロセスやリソース監視コマンドの動作状態を監視し、異常を検出すると自動的に再起動します。これにより、継続的なリソース監視を実現します。

3. 監視の設定と実践

それでは、一緒に StorageSaver を使用してみましょう！

3.1. インストール

まずは StorageSaver をインストールしましょう。

本製品は以下の手順でインストールします。

コードワードおよびインストールに関する詳細につきましては同梱の「CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.0 for Windows リリースメモ」をご覧ください。

※すでに本製品をインストール済みの場合は、以下の手順を行う必要はありません。
次のステップ(3.2 章)へ進んでください。

(1) 本製品が含まれるインストール媒体を CD/DVD ドライブに挿入してください。

(2) 【Setup.exe】を実行してください。

※【Setup.exe】の所在については、「2.1. 準備するもの」のインストール媒体の構成図を参照してください。32ビット OS と64ビット OS では使用する【Setup.exe】が異なりますので、ご使用の OS にしたがって選択してください。

実行すると下記画面が表示されますので、**次へ(N)** を押してください。



図 1 インストーラ準備画面

(3) インストール先のフォルダを指定します。

指定したフォルダ配下に“HA¥StorageSaver”フォルダが作成され、

各ファイルがそのフォルダにインストールされます。

デフォルトのインストール先フォルダは、Windows がインストールされているドライブ (%WINDIR%) の Program Files フォルダ、通常は "C:¥Program Files" です。

デフォルトの設定でインストールする場合は、**次へ(N)** を押してください。

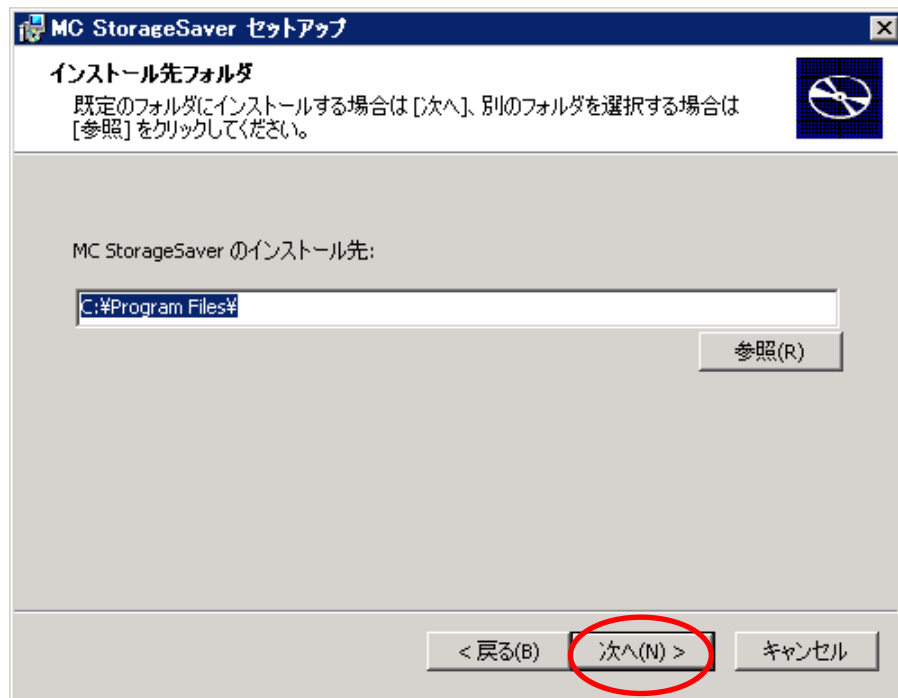


図 2 インストール先のフォルダ表示画面

インストール先を変更する場合は、直接インストール先を入力するか **参照(R)** を押してください。

参照(R) を押した場合、下記画面が表示されます。

インストールするフォルダを入力もしくは選択して、**OK** を押してください。

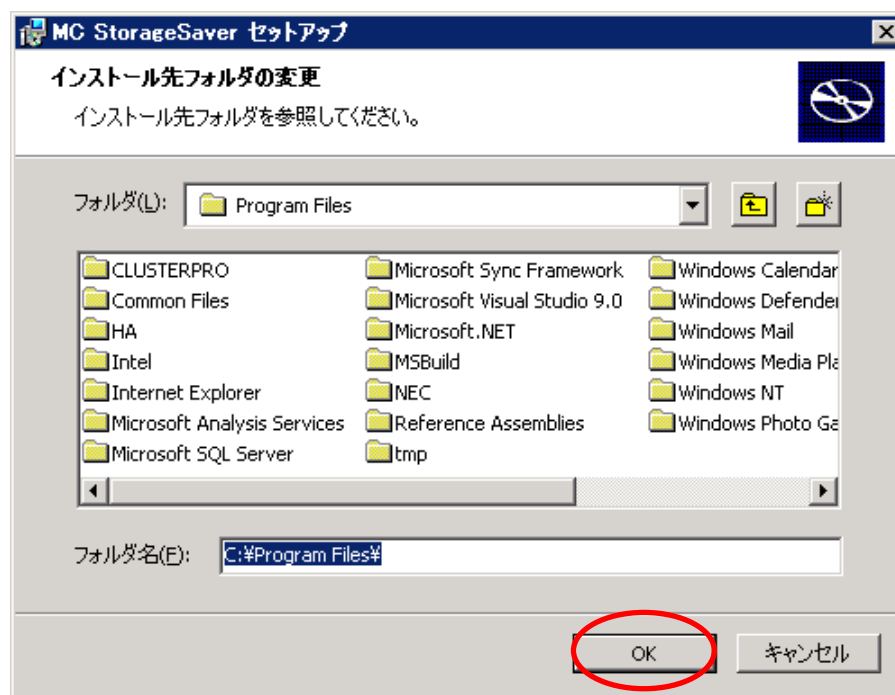


図 3 インストール先のフォルダ変更画面

注意 インストール先のフォルダには、ネットワークドライブ上のフォルダは指定できません。必ずローカルドライブ上のフォルダを指定してください。

(4) **インストール(I)** を押してインストールを開始してください。

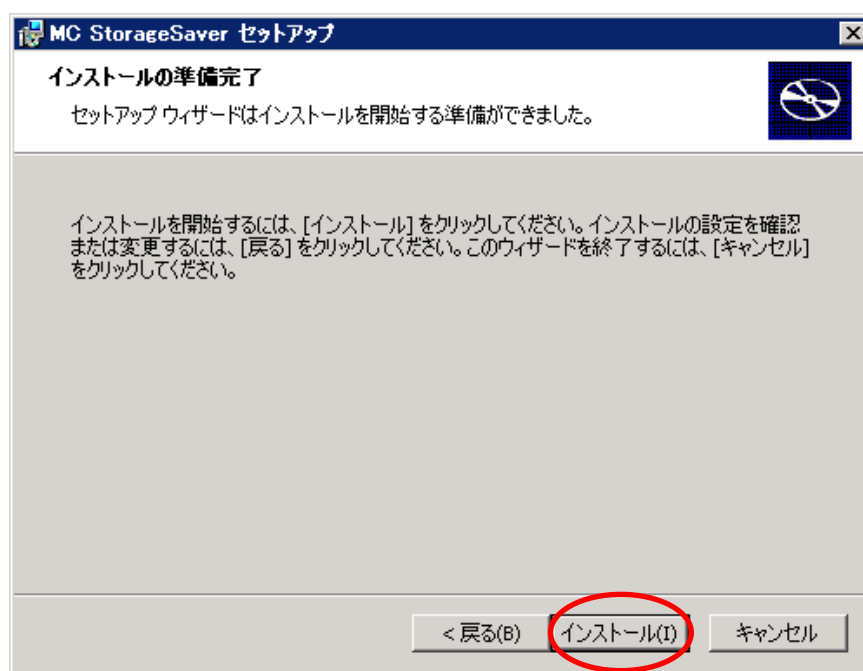


図 4 インストール開始画面

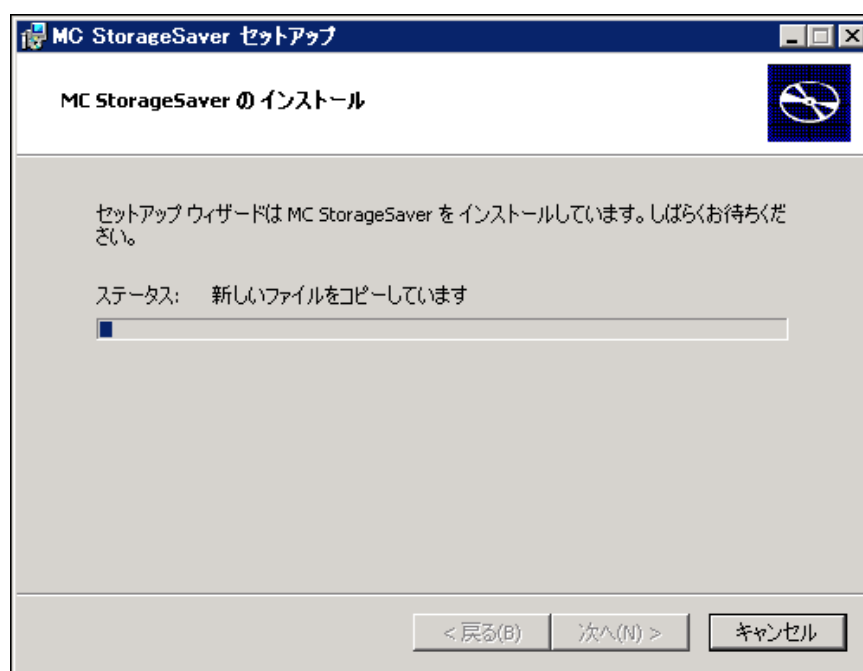


図 5 インストール中の状態

(5) 本製品のインストールが完了し、下記画面が表示されます。

完了(F) を押して【Setup.exe】を終了してください。

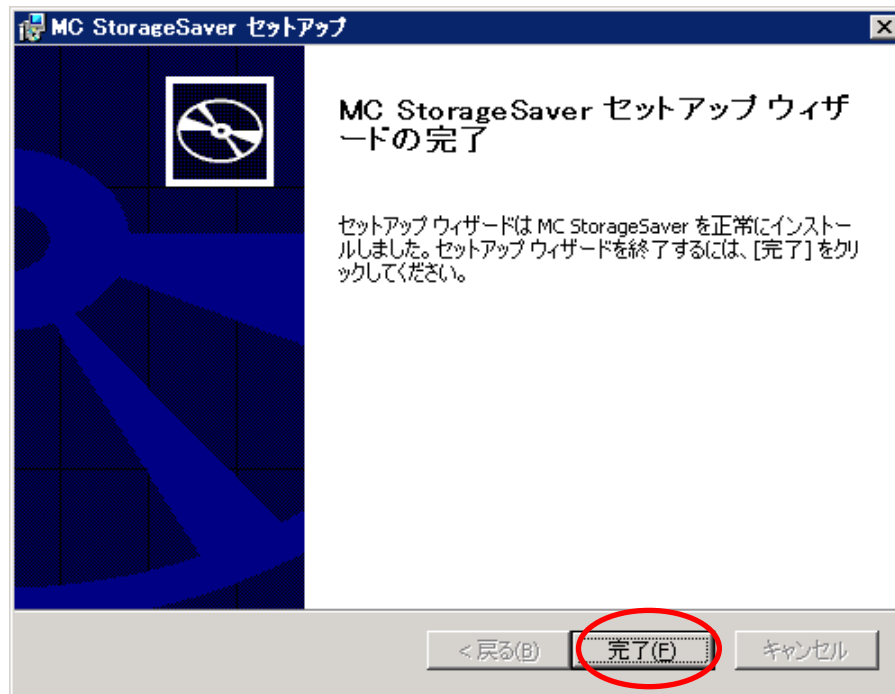


図 6 インストール完了画面

以上で、本製品のインストールは終了です。

注意 仮想 OS から ESXi ホストに対して、情報取得・制御を行うために
下記のツールのインストールが必須となります。
(インストール方法は VMware vSphere のマニュアルを参照してください。)

・Vmware vSphere CLI

3.2. 設定ファイルの作成

StorageSaver で使用する設定ファイルを作成しましょう。

StorageSaver は以下のファイルを使用します。

- ◆ システム定義ファイル【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config
ノード一意で使用する設定を定義したファイル
- ◆ 構成定義ファイル【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map
I/O パス情報の論理構成を定義したファイル
- ◆ リソース定義ファイル【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc
HBA カード(FC/SCSI カード)および I/O パスのリソース情報を定義したファイル
- ◆ 仮想環境用システム定義ファイル
【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg_v.config
仮想化環境での動作を制御するパラメータを定義したファイル

設定ファイルはノード単位に定義するファイルで、監視間隔や障害検出時のアクション、監視対象のデバイス情報などを定義します。

以下に説明する設定ファイルの作成手順をもとに設定ファイルを作成してください。

サンプルファイルが、【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥sample 配下に提供されています。

(1) srg_v.config のサンプルファイルをコピーします。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥sample¥srg_v.config ファイルを

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下にコピーします。

(2)コピーした `srg_v.config` を開き、以下のように編集します。

```
#####  
# StorageSaver #  
# VMware system configuration file for StorageSaver #  
#####  
  
#####  
# System VM Config Area #  
#####  
HostIP      192.168.1.1  →①  
HttpsPort   443 →②  
DatastoreName datastore1 →③  
LocalIP     192.168.1.100 →④  
UserInfoFileName C:¥Program Files¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml →⑤  
EsxcliPath   C:¥Program Files (x86)¥VMware¥VMware vSphere CLI¥bin¥ →⑥  
# select IfAction, vmcommand,vmapi  
IfAction     vmcommand →⑦  
IfTimeOut    10 →⑧  
IfRetry      3 →⑨
```

以下の値を変更してください。

- ① HostIP : ホストの IP アドレスを指定します。
- ② HttpsPort : ホストの https ポートを指定します。
※ デフォルトは、443 が指定されています。
- ③ DatastoreName : 仮想 OS ディスクの保存先データストア名を指定します。
- ④ LocalIP : 自仮想マシンの IP を指定します。
- ⑤ UserInfoFileName : ユーザ情報ファイルをフルパスで指定します。
※ デフォルトは C:¥Program Files¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml が指定されています。
- ⑥ EsxcliPath : Esxcli コマンドのインストールディレクトリ
※ デフォルトは C:¥Program Files (x86)¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml が指定されています。
- ⑦ IfAction : ホストとの IF アクションを指定します。
※ vmcommand を指定します。
- ⑧ IfTimeOut : IF(コマンドおよび API)のタイムアウト値を設定します。
指定値は 5 ～ 60 秒です。
※ デフォルトは 10 秒が指定されています。
- ⑨ IfRetry : IF(コマンドおよび API)のリトライ回数を指定します。
指定値は 1 ～ 5 回です。
※ デフォルトは 3 回が指定されています。

(3) ユーザ情報設定ファイル(xml ファイル)を作成します。

ユーザ情報ファイルは credstore_admin.pl コマンドにより自動的に作成されます。

esxlic ホストへ接続するためのホスト IP、ホスト、ユーザ名、パスワードを指定して credstore_admin.pl コマンドを実行してください。

```
C:\Program Files (x86)\VMware\VMware vSphere CLI\Perl\apps\general>
credstore_admin.pl add -s <ホスト IP:ホスト> -u <ユーザ名> -p <パスワード>
```

(4) 手順(3)で作成したユーザ情報設定ファイル(xml ファイル)を配置します。

C:\ユーザー\Administrator\AppData\Roaming\VMware\credstore\vicredentials.xml
ファイルを【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\conf 配下に配置します。

(5) 仮想 OS の VM 設定ファイル(vmx ファイル)を取得します。

1. vSphere Client を起動し、ESXi ホストに接続します。
2. 画面左側のツリーから ESXi ホストを選択し、“構成” タブの “ストレージ” をクリックします。
3. 表示されたデータストアの一覧から、Srgquery.exe を実行する仮想 OS の保存先データストアを選択した状態で右クリックし、“データストアの参照” を選択します。
4. 画面左側のツリーから、Srgquery.exe コマンドを実行する仮想 OS を選択します。
5. 画面右側に表示されているファイルの一覧から vmx のファイルを選択した状態で右クリックし、“ダウンロード” を選択します。
6. ダウンロードしたファイルを、Srgquery.exe コマンドを実行する仮想 OS の【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\conf 配下に配置します。

(6) 設定ファイル自動生成コマンド を利用して設定ファイルのテンプレートを自動生成します。

すでに設定ファイルが存在する場合は、自動で上書きします。

```
C:\> 【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\bin\Srgquery.exe -s <格納ディレクトリ>
```

注意：

- ・ 格納ディレクトリには、【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\conf を指定しないようにしてください。
 - ・ 設定ファイルの自動生成機能は設定ファイル作成の作業軽減のために設定ファイルのテンプレートを作成する機能であり、全てのディスク構成をサポートしているわけではありません。
- したがって、構成によっては正しく設定ファイルが作成できない場合があります。
かならず作成された設定ファイルを確認し、実際の構成と差異がある場合には
“4.1 手動による設定ファイル作成手順” に従って手動にて設定ファイルを修正してください。

- ・仮想 OS が起動している状態でディスクの削除等をおこなった場合、VM 設定ファイル (vmx ファイル) に削除されたディスク情報が残り、設定ファイルが正しく作成されない場合があります。

その場合、ESXi ホスト上の VM 設定ファイル (vmx ファイル) から、当該ディスク (scsiN:N.present の値が “FALSE” になっているディスク) に関する定義を全て削除した状態で仮想 OS を再起動し、修正後の VM 設定ファイル (vmx ファイル) を【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下に配置後、再度 Srgquery.exe コマンドを実行してください。

(7) 設定ファイルの妥当性の確認を行います。

```
C:¥> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgconfig.exe -c -s  
<確認対象設定ファイルの格納ディレクトリ>
```

(8) 設定ファイルを実行環境へ適用します。

```
C:¥> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgconfig.exe -a -s  
<確認対象設定ファイルの格納ディレクトリ>
```

以上で、ファイルの準備は完了です。

3.3. 監視の開始

StorageSaver による物理パスの監視を開始しましょう。

- (1) StorageSaver を起動して、監視をはじめます。

```
C:¥> net start "HA StorageSaver"
```

- (2) tasklist コマンドにより StorageSaver のプロセス(Srgvping, Srgd, Srgwatch)が起動していることを確認します。

```
C:¥> tasklist | findstr Srg
Srgd.exe           3308 Services          0      19,060 K
Srgvping.exe       608 Services           0      20,184 K
Srgwatch.exe       3828 Services          0      21,016 K
```

注意:Srgvping は Srgd を起動後、約 1 分後に起動されます。

3.4. 監視状態の確認

Srgadmin コマンドにて物理パスの監視状態を確認しましょう。

監視リソースおよび各リソースの監視状態を表示します。

```
C:\> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin.exe -i
(monitor status = TRUE)
```

	: datastore	: path	: L status	: P status	: Online status
E:	: up	: pkg1			
DISK :					
	: iSt1	: vmhba3:C0:T0:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba3:C0:T1:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba4:C0:T0:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba4:C0:T1:L0	: up	: up	: extended

```
C:\> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin.exe -i
(monitor status = TRUE)
```

	: datastore	: path	: L status	: P status	: Online status
E:	: up	: pkg1			
DISK :					
	: iSt1	: vmhba3:C0:T0:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba3:C0:T1:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba4:C0:T0:L0	: up	: up	: extended
	: iSt1	: vmhba4:C0:T1:L0	: up	: up	: extended

① DISK が保存されているデータストア名

② 物理パスの論理(管理状態)ステータス

③ ESXi ホストから取得した物理パスのステータス

④ 物理パスの組み込み状態

(1) 表示されている項目の説明

- ① 仮想ディスクの保存先データストア名を表示します。
- ② 物理パスの論理ステータス(管理状態)を L status として表示します。

表示	意味
up	正常動作中
down	障害状態
-	監視停止中

- ③ ESXi ホストから取得した物理パスのステータスを P status として表示します。

表示	意味
up	正常動作中
down	障害状態
-	監視停止中

- ④ 物理パスの組み込み状態(Online status)を表示します。

表示	意味
extended	組み込み済み
reduced	閉塞状態
alive	状態不明
unknown	状態不明

3.5. 監視の終了

StorageSaver による仮想環境での監視の終了手順を確認しましょう。

- (1) StorageSaver を停止して、監視を終了します。

```
C:¥> net start "HA StorageSaver"
```

- (2) tasklist コマンドにより StorageSaver のプロセス(Srgd, Srgvping, Srgwatch)が停止していることを確認します。

Srgd、Srgvping および Srgwatch が表示されないことを確認します。

```
C:¥> tasklist | findstr Srg
```

4. 付録

4.1. 手動による設定ファイル作成手順

設定ファイルを手動で作成する場合の手順を説明します。

- (1) 仮想環境用システム定義ファイル (srg_v.config) がないことを確認します。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下に仮想環境用システム定義ファイル (srg_v.config) がないことを確認します。

既にファイルを作成している場合はファイル名を別名で保存します。

srg_v.config が存在する状態で Srgquery.exe コマンドを実行した場合、環境によっては作成されたテンプレートに I/O パス情報が正しく定義されない可能性があります。

- (2) 設定ファイル自動生成コマンド Srgquery.exe コマンドを利用して設定ファイルのテンプレートを自動生成します。

すでに設定ファイルが存在する場合は、自動で上書きします。

```
C:¥> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgquery.exe -s <格納ディレクトリ>
```

- (3) 設定ファイルの妥当性の確認を行います。

```
C:¥> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgconfig.exe -c -s  
<確認対象設定ファイルの格納ディレクトリ>
```

- (4) 設定ファイルを実行環境へ適用します。

```
C:¥> 【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgconfig.exe -a -s  
<確認対象設定ファイルの格納ディレクトリ>
```

(5) 仮想環境用システム定義ファイル(srg_v.config)を作成します。

【(1)で既存の srg_v.config を別名で保存した場合】

別名で保存したファイルを元のファイル名(srg_v.config)に戻します。

【新規に srg_v.config を作成する場合】

srg_v.config がない場合にはサンプルファイルをコピーします。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥sample¥srg_v.config ファイルを

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下にコピーします。

コピーした srg_v.config を開き、以下のように編集します。

```
#####  
# StorageSaver #  
# VMware system configuration file for StorageSaver #  
#####  
  
#####  
# System VM Config Area #  
#####  
HostIP      192.168.1.1 →①  
HttpsPort   443 →②  
DatastoreName datastore1 →③  
LocalIP     192.168.1.100 →④  
UserInfoFileName C:¥Program Files¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml →⑤  
EsxcliPath   C:¥Program Files (x86)¥VMware¥VMware vSphere CLI¥bin¥ →⑥  
# select IfAction, vmcommand, vmapi  
IfAction     vmcommand →⑦  
IfTimeOut    10 →⑧  
IfRetry      3 →⑨
```

以下の値を変更してください。

- ① HostIP : ホストの IP アドレスを指定します。
- ② HttpsPort : ホストの https ポートを指定します。
※ デフォルトは、443 が指定されています。
- ③ DatastoreName : 仮想 OS ディスクの保存先データストア名を指定します。
- ④ LocalIP : 自仮想マシンの IP を指定します。
- ⑤ UserInfoFileName : ユーザ情報ファイルをフルパスで指定します。
※ デフォルトは C:¥Program Files¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml が指定されています。
- ⑥ EsxcliPath : Esxcli コマンドのインストールディレクトリ
※ デフォルトは C:¥Program Files (x86)¥HA¥StorageSaver¥conf¥vicredentials.xml が指定されています。

- ⑦ IfAction : ホストとの IF アクションを指定します。
※ vmcommand を指定します。
- ⑧ IfTimeOut : IF(コマンドおよび API)のタイムアウト値を設定します。
指定値は 5 ～ 60 秒です。
※ デフォルトは 10 秒が指定されています。
- ⑨ IfRetry : IF(コマンドおよび API)のリトライ回数を指定します。
指定値は 1 ～ 5 回です。
※ デフォルトは 3 回が指定されています。

(6) vSphere Client (GUI)を使用して設定に必要な情報を取得します。

- ① vSphere Client を起動し、ESXi ホストに接続します。
- ② 画面左側のツリーから設定を行う仮想マシンを選択し、“はじめに”タブ の
“仮想マシン設定の編集”をクリックします。
- ③ “ハードウェア”タブの一覧から、監視対象の仮想ディスクを選択し、
仮想ディスクの保存先データストアを確認します。
- ③-1 監視対象となる仮想ディスクを選択します。
SCSI ID の昇順で仮想 OS 上のデバイスに割り振られます。
【例】
ハードディスク 1 - scsi 0:0 → C:
ハードディスク 2 - scsi 1:0 → D:
ハードディスク 3 - scsi 0:2 → E:
ハードディスク 4 - scsi 0:1 → F:
- ③-2 選択した仮想ディスクのディスクファイル(保存先)からデータストアを確認します。
[] で囲まれている部分がデータストア名となります。
- ③-3 仮想マシン設定の編集画面を閉じます。
- ④ データストアが使用する物理パスのランタイム名を確認します。
- ④-1 ツリービューのホストを選択し構成タブを選択します。
- ④-2 ハードウェアの “ストレージ” を選択します。
- ④-3 手順③-2 で確認した、データストアを選んだ状態で、右クリックし
プロパティを選択します。
- ④-4 データストアのプロパティ画面の”パスの管理”ボタンをクリックします。

- ④-5 表示されているパスが物理パスとなりますのですべてのランタイム名を確認します。

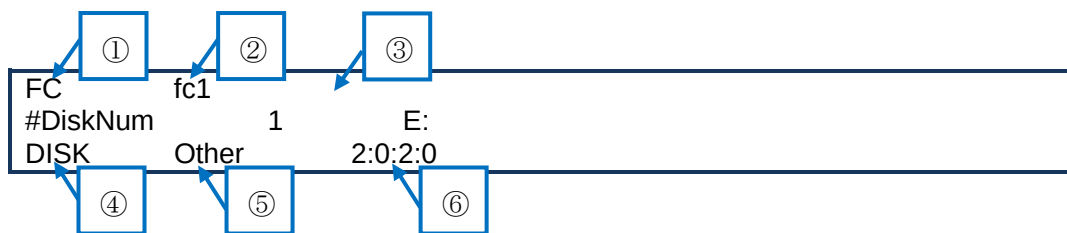
監視対象となる仮想ディスクの保存先(データストア)が複数のディスク(LUN)で構成されている場合は、すべてのディスク(LUN)への物理パスの情報を確認してください。

- (7) srg.rsc を開き、以下のように編集します。
手順(6)で特定した情報を元に設定します。

本書では、下記の環境で動作させることとし、記述します。

監視対象となる仮想ディスク	: E:
仮想ディスクの保存先(データストア)	: iSt1
物理パスのランタイム	: vmhba3:C0:T0:L0
	vmhba3:C0:T1:L0
	vmhba4:C0:T0:L0
	vmhba4:C0:T1:L0

自動生成で作成された srg.rsc



以下の値を変更し、ランタイム(物理パス)数分の定義を追加してください。

- ① HBA 情報 : “FC” を指定します。
- ② Alias 名 : FC を特定する名称としてデータストア名を指定します。
※手順(6) で特定した下記の データストア名に任意の文字列(本書では、通番とします。)を付けて使用します。(iSt1_1 ~ iSt1_4)
- ③ 物理 HW パス : 物理パスのランタイム名を指定します。
- ④ DISK : “DISK” を指定します。
- ⑤ DiskType : “Other” を指定します。
- ⑥ HW Path : 自動生成した値をそのまま使用します。

設定ファイル自動生成コマンドにて作成されたが、監視対象としないデバイス(DISK 情報)については、削除してください。

設定変更後の srg.rsc

```
FC iSt1_1 vmhba4:C0:T0:L0
#DiskNum 1 E:
DISK Other 2:0:1:0
```

```
FC iSt1_2 vmhba3:C0:T1:L0
#DiskNum 1 E:
DISK Other 2:0:1:0
```

} この部分が 1 パス分の設定となります。
※ 本書では、4 パスを監視対象としている
ため 4 パス分のパラメータを設定して
います。

```
FC iSt1_3 vmhba3:C0:T0:L0
#DiskNum 1 E:
DISK Other 2:0:1:0
```

```
FC iSt1_4 vmhba4:C0:T1:L0
#DiskNum 1 E:
DISK Other 2:0:1:0
```

(8) ユーザ情報作成コマンド credstore_admin.pl を利用して

ESXi ホストへ接続するために必要なユーザをユーザ情報ファイルに登録(作成)します。

```
C:¥Program Files (x86)¥VMware¥VMware vSphere CLI¥Perl¥apps¥general>
credstore_admin.pl add -s <ホスト IP:ホスト https ポート> -u <ユーザ名> -p <パスワード>
```

(9) 手順(8)で作成したユーザ情報設定ファイル(xml ファイル)を配置します。

C:¥ユーザー¥Administrator¥AppData¥Roaming¥VMware¥credstore¥vicredentials.xml
ファイルを【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下に配置します。

5. おわりに

以上、StorageSaver の基本的な動作となります。

この他にも I/O ストールの監視や、クラスタウェアとの連携など、システムにあわせた監視を行うことができます。

各機能の詳細については「CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.0 for Windows(vSphere) ユーザーズガイド」をご覧ください。

CLUSTERPRO
MC StorageSaver 2.0 for Windows
はじめての StorageSaver (vSphere 対応版)

2015 年 6 月 第 2 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL (03) 3454-1111 (代表)

P

© NEC Corporation 2015

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙